

# 夫は若いころから「一人になったら安心できる 老人ホームで暮らしてほしい」と言っていました

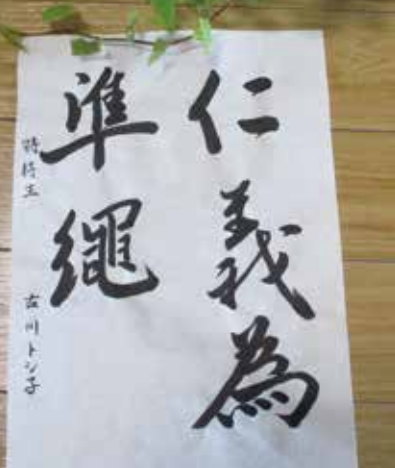
京都へゆづゆの里

古川トシ子様（78歳）令和2年1月 一人入居

仕事をほったらかして帰ってき  
たらダメだ

主人は叔父の紹介です。職場を同じくする叔父の部下でした。叔父には結婚したいと言っていたそうですが、後にも先にも私は求婚されたことはありません。一言で言うとう仕事人間。結婚してみるとなかなか帰ってこない。主人の父が亡くなった時も探し回ったのを覚えています。とにかく仕事一徹でした。

私は卒業と同時に銀行に就職。夫の転勤を機に退職しましたが、再就職して中小企業の経理担当と



競書に出品した書

なりました。この会社は、自分の責任で最後まで仕事を任せてくれました。だから仕事の段取りも思うようにできたので、決算月でも残業せずにこなせるまでになりました。この会社のおかげですごく成長できたと感謝しています。その当時には珍しい共働きでしたが、主人は「仕事をほったらかして帰ってきたらダメだ」と、私も職場を第一にするように求め、言うだけでなく買い物や料理も手伝ってくれました。

**突然の病でしたが、それまでの夫は楽しんで暮らしていたと思います**

主人は退職してから二年間男の料理教室に通い、マイ包丁を作って楽しんでいましたね。退職者の会では、歩く会や川柳の会にも入っていました。料理を家で作ってくれるのはありがたいけど、その片付けは大変なものでした。でも主人には主人の楽しみがあったおかげで、私も好きな植木いじりをすることができました。年末のことでした。美味しいパ



ンを見つけたと買って帰るほど元気だったのに、年が明けたら、ずつとイスにうずくまっています。緊急入院させると、進行の早いガンとわかり既に手術ができない状態だったのです。もう何と声をかけていいかわりませんでした。

主人は兄弟にも知らせるなど言ったのですが、思い切って知らせました。引き合わせた時、本人は私の顔を見て「言うたんか」と言っているのが分かりました。妹が「兄ちゃん！」と言うと、どっちも泣いているんです。やっぱり会わせて良かったと思えました。それから一週間後に亡くなりました。

**この場所に私が必要とする全て  
があると決心しました**

子供がいらないことから、主人は早いうちから「一人になったら安心できる老人ホームで暮らしてほしい」と話していました。自分が先に逝くと決めていたようです。主人の一周忌が済んでからゆっくり決めようと思っていましたが見

学に来てみると、自分より若い人が待機登録を決めていることに感心し、サークルで元気に活動している入居者の皆さんを見ては、早く入居するのも良いなと思いました。今までと同じように生活できて、安心があることが何よりです。習字サークルもフラサークルもある。この場所に私が必要とする全てがあるのですから。

**フラは早く一曲を踊れるようになりたい**

入居にあたり自宅で育てた観葉植物を持ってきました。朝起きてから水をあげたり、霧吹きをしたり、眺め回したり、元気があつて話しかけたり。喫茶白川では、お取り寄せスイーツが楽しみで毎回予約しています。

4年ほど前に始めた習字もここで続けることができます。入居者の先生に勧められて競書に出品することを目標に挑戦しています。興味があったフラも始めました。フラはゆるい動きで全身運動ができます。心臓が少し弱いのできついのは難しいですが、こちらでは私のペースに合うようにゆっくりと教えていただけます。他のメンバーの衣装が新しくなるのを見るのも楽しいです。私も好きな衣装を身につけ、早く一曲を踊れるようになりたいです。